第二話

いじめられる同校生入様

学生にとっては、待ちに待った、じゅわくの春休みが、目の前だ。しかし、この休みの期間中は、子ども達にとっては、人間としての生きていく為の実践の体験場となっている。

であるから、この貴重な休みの間は、宿題をなくすか、少なくして、同学年、同教師、コンクリの教室と、教師から、解放され、社会と、自然の野山で遊びながらに、仲間としての、未曾有、知識と体験場を重視すべきだ。

こうした、実践体験、が、夏休みが、終って、学校へ行く意欲の充電になる事を忘れては、おるなっか、

仁界（社会）の全ての大人たちは、大人の立場の目線で考えた、案を、伝えるので、なく、その人たちのおかれる立場の根底になるこころを

議論をしたり、実行「なぜ」「子どもの大切な人間形成」の、成長期の休みの意味が無駄になってしまうように思います。

最近の教育に携わる立場の者は、遊びの根底を身に付けずに、只、学問のみを頭につめ込み、教師になられたがゆえに、ゴジる。

これからの教師に、なられる方には、学識だけを身に付けただけでは、新しい心の国日本をつくる子どもを育てる事は、出来ないのだと思います。

これからの日本の教育者の取り組みは、政府や地域が、心を一つにして完成されたら、教育者を育てる場提供する事である。

そして、親、教育者に、のぞむ環境を実現出来る、政治家を、我々一人一人が選ぶことを、死んでも忘れてはいけない。

私が、このようなことばを、申す理由は、みなさんも、わかっておられますね、そうですよ、子どもたちの幾

来をあんじての事ですが、
又、くどくまたまたまた、私の
演説がながくなりましたが、
ニオイ、私のテントに入ってください
ますぞ。
私が下界へ行く訳はいろ
いろといってありますけれど
その日によって少し違います
が、けっして教えられない時間は
ありませんぞ。

又あの、今日は、我が森の中の
自治の食料がなくなった
事で、手に入れる事が一番
の目的でございます。
少しでも安い食料を手に
入れる為に、なんか新しい食料
屋をまわってみて、一番に
安い店で買うのでございます。
あったぞ、これは、というぞ、いわし
が、正で100円、それで四日間は、

おかず としていけるが、
現在は、こんなに安くでは、子に
へらないぞ。
そして、我が家があるまち林へ
向って、自転車を走らせていた。
前方から、自転車に乗っ
た若者が、段々と近くにな
ってきた。
あっ、仙人、仙人でしょう、
テレビで見た、仙人ダラ、どこに
行くダラ、
おしゃか、道場へ帰えるのじゃ。
何に、用か、
若者は、慌てて、途中
で、それから横道へ、消えた。
あの男、何にと考えている
だ、言葉は良くないし、
ニヤニヤして締まりない顔をし
て気持が、悪い奴だ、
と思いながら、我が愛車の自

転車を走らせていた。
そんな時に、後方から、仙人
「待って」
私は後を振り返る。なん
んだ！とっさの変な奴
だ。おばえ、私に話をしてか
おさながら、急に姿を消
したり、矢、礼だろう。何に
考えておるのだ。私は化が
いのだぞ。

ああ、僕の家がすぐそこ
にあるから、行ってみたい。
そうだあったか、それば、
おばえは、行きながら、どこに
行くのかな。
ああ、仙人のところに行
くし。
おばえは、何にそこいっておる
のだ。私はおばえと一緒に
修行に行くとはいっておらん。ぞ。

おばさん、勝手に決めて、行動をしたら大変なことが起きるに違いない。今日は、もう遅いから明日にしなさい。

だが若者は、ニコニコしながらこたえると私の後ろについてくる。おばさんは、私の話を聴いているのか、

とあっという間に帰ってしまった。

私は、夢に対してどうしたらいいのだろう、と思った。

行くことを決めた。

私は、自転車を止めた。

おいおい、ちょっと待ってよ。

おばさんは、自転車を決めるのに、

なぜ、人の顔を見てから決めるのか、

一人は良くテレビに出ているから、そして、子どもの教育熱心なお母さんが、僕を受け入れてくれると、僕の感謝の気持ちを、いっぱいあらわすことになるのだ。

まえの友達は、それぞれ、いろいろ、お母さんが、いわないけど、お母さんが、おまえに、いわないから、おまえは、あの人の家へ行く道だけは、当然だなと、思いつつ、おかあさんが、死んだと、いうのだから、この私が、思いつつ、いっしょに、おまえと一緒にいる、のだから、今日の出来事を、知ったのだから、やっと会ったのが、ラッキーの機会を、つかんだから、次は、いつになるか、わからない。

ない！」

あまえんぼうなに、私の

どこへでも行きたいのかもの

心に決めているみたいだった。

コートとで何度も見たけど

明るい明るい人みたいな人と思ってた

いたが、本当は優しい人

なのだ。僕の目にくるっぱ

ながったり。

本当は明るい人かもが！！

コえんなんなら、私なんなしだ

「翔！目で私を見ないでこっち

！」

「人いるおいおい前を向い

ていないとぶつかるぞ。

彼方がなしなしおまえの気持

には、まいったぞ。

今日は、春の入口まで行った

ら、暖かいだけだ。良いなら行

こうぜ。」

若者は、それはなぜ、それは、嬉

い顔をして、笑っているお
ばさんが、高一年になったばかりの
私のような、言葉使かい、しかも
学校なしのかたたちえばだなん
ては、えっ、ですかわかりません
とか、えっえないのかこの馬
鹿者が、一度入ってみろ……口が悪い……
あのなんでいいかおばさんの喋る
方は、合わせたらこのようにな
るのだと、この高飛車に私が
ばかばかしいと思えば、私からばか
といわれたら、気分が良いか
良くないであろう。
まいが、こんなは便かいにはえの
人の人格が出入くるものだと、
人、えっ、人だなおばさを育
人に親も笑い者にされるのだ
ものの高校生だから人間性
を培う修行を、実行したら

どうぞ、
一ハイ、気を付けます、
分業するべきはないか、その調子
だ、とこうべきなら、おまえの意例
を、まだ聴いて、いないなかったな
一ハイ松平角校一年久保
意です」
おまえ、少々多例に負けたお
るだ、
「はい、負けている、意味がわ
からんです」教えて下さい」
「良いか、私は、一から十まで教
える事は、ないぞ、
「どうしてくださいですか」
「良いか、全ての事を、終わ
りまで教えていたら、自分
で考えようと、なくなって
「まい、今のおまえのように
になってまっていて人の力を当
てにするようになり、自分

で、物を、造るしくみが能力がなくなり、最後の人間になる訳だ。まあ、簡単にいったらこんなものかな。わかったか、矢部

―えーッ、分かりません。

このような事を僕にいったらなかったなら、先のようなことを思う人の数を、早く

―みたいですッ。ありあり、ここが、森の入口ですッ。はい。

あれるなら、何に事に順序があるのだ。ここあ、ここが、森の中の人間だ。

ここをトンネルぼくがるこ。

さあ、わかったか。うん、

まう通ってから、のち帰えれ、

一ハアー。わかりました。師匠、

明日来ますッ。

おい、おい、行くならしっかりしたのか、

「師匠と、いったでず」

なにもうまう弟子になったのか、おまえは、その気になるのも早いものよ。

先の早い行動を、良い方向に使かい方が、分来れば、あ

まえの人は、冷人ものではなくなるぞ。

「私入学試験」明日、来ていた

だいたぞ、三日と、もつま

い、分、まで、ろくな者が、

来たが、長く続かない

大自然の森のなかでの修

行は、街道場とは、雰囲気が

住来可な気持ちでは、続かない

ものよ、先だけに、利点にな

る弟が、沢山ある。

下界の道場では、身につかな

い

い。高度なかくて技が、しかしで日、体得できる事じゃ。
ミミズ、下界の、大学生が
私の森の道場に残ってい
た、竹の手紙を一訪問配達を
三、四行、ずつ。
この学生は、愛と大学四年
生で、陸上部で学費も、免
除を受けていた。だけあって
始めの五人位で、私の元へ
来たが、その中で一番の力があ
ったので、私は、この学生を
ふたり、裏へ、あげた。
でなんと、この学生が、
一人でやって来たのである。
十か十、二日と続かなかった
元の子の感想文である。
一人、道場に来て、僕が
身も心も未熟だと、わかった
がとにかくにせよ
ありがとう

精神的に、未熟だと、痛感した。何に事におけても自分で道をきり拓いていくことが、必要だと、思う。これからは時間をつくって人道場に来て、心、身とも鍛えようと、思う。つらい修行だと、思うが、続けていきたい。

平成七年六月二十四日中野稔

小学三年

さて、さて、久保君の評にいきますが、なかなか、要領が、本当に、来ないのですが、久保君は、私を、探がしながら、ようろ、ようろ、あたりを見ながら、私の所に、

来た。おお！おまえ！修学
に来たのか！
どうして修行をしたい気持
になったのか！
一つは精神的にも他人のよう
に強くなりたい！友達から
の誘いも断ることもできな
い気持を強くしたい！師匠
！修行をさせて下さい！
もうかっすすめるにしじめ
を受けて入ったと訳だな！
この森の活動の趣旨にビビッ
タンじゃないかい！わかったか！
一師匠！一すだけ！体を動
かしたくなったのでいいですか
！
一すでなくていっぱい体を動か
す！
一はい！森の魅力にのめり込み
ましょう！師匠！弟子にしてください

らったからいえますが、道で
僕が、師匠に弟子入りした時
は、まだドキドキしていて、
もし、無視されたらどうし
ようと、僕にとって
は、生れて始めての大きな
勇気を出したのです。
でいうか、それは、僕の
てつかわそうっ、わーはおま
えのことを、弟子なんぞ
だなと思っていたが、やるべは
ないか、これからは、その勇気
と、行動を自分のみに出す
のでなく、弱い者の為にもつか
うようにしたらいいなー
ああ、わかったー
おいおい、久保一寸来めて
やるとこ、ことばが、元にもどる
わかりました。ただろうが、
コイツ頑張りますー

それでは、師匠、今日は、
これで帰えります。来週から
本格的に修行をします。
しっかりやっても良いですか。
久保は、森の道をまっすぐ
ゆっくり飛ばしなさい。
なぜ、ジクザクなのですか。
森を、後にして、うれしかった
ためだろう。